

環境省も参画、4省庁との連携に T E J に合わせ、「ジャパン・トラベル・マンズ」



「ツーリズム EXPO ジャパン(T E J)」の 2017 年の開催期間を 9 月 21 日から 11 月 3 日までの約 1 カ月半にわた

り、観光機運の醸成を目指す官民連携プロジェクト「ジャパン・トラベル・マンズ」が展開されます。スポーツ庁と文化庁、観光庁は、2016年3月に包括的連携協定を締結し、3庁の連携を通じて国内各地のスポーツイベントや文化芸術資源を結びつけることで、地域における新たな観光資源を創出し、地域ブランドや日本ブランドの確立・発信を行う取り組みを進めてきました。

「ジャパン・トラベル・マンズ」は、この3庁による取り組みに、総合観光イベントとして大きな注目と来場者を集めている T E J が民間事業として連携し、T E J 開催期間を中心に展開するプロジェクトとして昨年スタートしたものです。

昨年3月に「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」議長 内閣総理大臣が策定した新たな観光ビジョンでは、文化財について「保存優先」から旅行

者の視線に基づく「理解促進」、そして活用へと進める方向性が示されたほか、国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」として、世界中からさまざまな人々が上質な自然体験を求めて日本を訪れる空間にすることを目指して、魅力の核となる自然をしっかりと保全していくことを前提に、民間の力も活かして体験・活用型の空間へと集中的に改善する考えなどが打ち出されました。

こうした動きも踏まえて、今年の「ジャパン・トラベル・マンズ」には、「国立公園満喫プロジェクト」を推進する環境省も参画することになり、官民連携プロジェクトとしての「ジャパン・トラベル・マンズ」のパワーアップが期待されています。

「観光機運の醸成」へ旅行業界も後押しを 観光庁観光資源課の西村晃代係長は今年の「ジャパン・トラベル・マンズ」について、「日本遺産やスポーツイベント、国立公園などの幅広い地域資源を活用したツアー造成によって、観光機運醸成を後押ししていただきたい」と呼びかけています。

地域の歴史的魅力や特色を通じて文化・伝統をストーリーとして発信する「日本遺産」を認定している文化庁も、「文化財や伝統文化を通じて地域の活性化を図るためには、その歴史の経緯や地域の風土に根ざして受け継

がれている伝統や風習も含めて理解を深めてもらうことが大切であり、旅行商品化はその大きな支えになる」(文化財部記念物課 中村崇志専門官)と強調。

スポーツ庁によると、スポーツコミッションの設置によって地域でスポーツイベントを開催する自治体の動きも広がってきており、同庁の梅田修之参事官(地域振興担当)付専門職は、「官民の連携によってスポーツツーリズムを振興し、地元への旅行流動の拡大を図

ることは、地域の活性化という観点からも重要」と指摘。「今年の『ジャパン・トラベル・マンズ』では、具体的なツアーなどを実現してスポーツイベントが地域への旅行者誘致に有効な観光資源であることを示していきたい」と意欲を見せています。

「国立公園満喫プロジェクト」を推進する環境省も、「80年以上の歴史を持つ日本の国立公園では、これまでも『保全』と『利用』を両輪としてきていますが、『ジャパン・トラベル・マンズ』への参画を通じて、ツ



中禅寺湖と男体山。湖上からの眺めを自然と歴史ガイドで楽しめる(日光国立公園)



森林、廃道、古道など、地域ならではの資源を活用した「TOGA 天空トレイル」(富山県南砺市利賀村) 写真提供: TOGA 天空トレイル大会実行委員会



朝霧に浮かぶ津和野城跡。霧がはれると旧城下町が現れる(日本遺産「津和野今昔〜百景図を歩く〜」)



独自の文化・伝統も育んできた水が生み出す美しい風景(日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」)

ーリズムとの関わりをさらに深めていくことで、地域資源としての活用を高めていけるようにしたい(自然環境局国立公園課国立公園利用推進室 加藤雅寛エコツーリズム推進係長)と説明。地方創生や地域活性化という側面でも国立公園の担う役割はまだまだ大きく、環境省としては、「集客や送客という旅行流動の創出だけにとどまらず、いわゆるサステナブルツーリズムの実現という観点からも旅行業界との連携を図っていききたい」考えです。